

■平清盛 武将。平家棟梁。保元・平治の乱で覇権握り、武家初の公卿・参議になるが、独裁恐怖政治で源氏蜂起へ。

たいらのきよもり

・ ・ ・ ・ ・ 1118＝ 生，_平忠盛の嫡子。白河院の落胤といわれ，母は祇園女御の妹とする説が有力。

・ ・ ・ ・ ・ 1119＝ 3歳：この生母は清盛生誕の翌々年に病没したらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1127＝ 9歳：

鳥羽院政始・ 1129＝11歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1136＝18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1145＝27歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1146＝28歳：安芸守に任ずる。
・ ・ ・ ・ ・ 1147＝29歳：延暦寺との抗争。

_父忠盛が鳥羽院の近臣として築きあげた武将としての地位，西国の国守を歴任して蓄えた財力をもとに，

・ ・ ・ ・ ・ 1153＝35歳：_父忠盛の死去後，平家武士団の首長を継ぐ。

為朝鎮西乱行 1154＝36歳：

保元の乱・ 1156＝38歳：*保元の乱で源義朝とともに後白河天皇方として勝利をおさめ，少納言入道信西と結んで昇進。

後白河院政始 1158＝40歳：大宰大貳に任ずる。

平治の乱・ 1159＝41歳：_平治の乱で源義朝を破り，以後は唯一の武門の棟梁として，国家権力の中で“武(軍事)”を担当する権門としての地位を確立する。平治の乱後は昇進を急速に早め，

・ ・ ・ ・ ・ 1160＝42歳：*参議正三位となり，武士として初めて公卿に列した。
・ ・ ・ ・ ・ 1161＝43歳：検非違使別当に任ずる。
・ ・ ・ ・ ・ 1163＝45歳：

源頼政内昇殿 1166＝48歳：内大臣正二位となる。

清盛太政大臣 1167＝49歳：_左右大臣を飛び越えて一気に太政大臣従一位の極官に昇る。しかし3ヵ月後官を辞し，

厳島神社・ 1168＝50歳：*病により出家，摂津福原に引退。その後も平家一門の総帥として朝廷内にも強い発言力を保持し続け，清盛の昇進にともない，嫡子重盛以下平家一門の人々の官位も昇り，また諸国の知行主，国守の地位を多く得て，平家は政治的，経済的に圧倒的優位に立つようになった。清盛の娘たちは，盛子が関白藤原基実の室となり，盛子の妹寛子は基実の子基通の室となったほか，

・ ・ ・ ・ ・ 1172＝54歳：_娘徳子(建礼門院)が高倉天皇の中宮となって皇子(安徳天皇)を出産。これらのことによって，京都の公家勢力の政治的・経済的基盤を侵食する結果となり，朝廷内外には反平氏の気運がしだいにはぐくまれていった。

_権力集中にともなって，かつて平家の保護者的立場にあった後白河院との対立が深刻化，

鹿ヶ谷事件・ 1177＝59歳：_院近臣による平家討滅の陰謀が露顕するに至り，これを契機に清盛と院とは鋭い対立を見せ始め，

治承のクーデタ 1179＝61歳：*平盛子が死去すると，その遺領を院が没収し，清盛の嫡子重盛死去の際にはその知行国越前を院が奪うに至った。清盛は大軍を率いて福原から上洛し，後白河院を鳥羽殿に幽閉し，院に近い公家39名の官を解いて親平家派の人々をこれに替えた。ここに名実ともに権力を完全掌握した平氏政権が成立し，

源氏一斉蜂起 1180＝62歳：*安徳天皇の即位により，清盛は天皇の外祖父の地位を得ることとなる。以後平氏は禿童を密偵として京中に放つ恐怖政治のもと，“一門公卿十余人，殿上人三十余人”平家知行の国三十余ヵ国，既に半国に及べり”と言われる独裁政権が樹立された。しかしこのことは反平氏の気運をいっそう強めることとなり，院，貴族，寺社および在地武士が反平氏という立場で結束し，以仁王の挙兵，伊豆の源頼朝，木曾の源義仲の挙兵と諸国源氏の蜂起が相ついだ。これに対し清盛は福原遷都，南都焼打ちを敢行してこれに対抗しようとしたが，結果は平氏の孤立化を深めただけで，

平清盛没・ 1181＝63歳：_憂慮のうちに，熱病で没した。